

二〇一三年三月三日

灯台を越えて海へと花吹雪
師の墓に額づきをれば花吹雪
水面切る鯉の背鰭に花の屑
一〇一三年三月三〇日

中腹に抜きん出てをる大桜
春愁や思惟の菩薩のくすり指
花吹雪拍手喝采大道芸
瘤だらけなる老幹も花万朵
曲りたる腰を伸ばすや花の下
河原から土堤見あげれば花の雲

花人を縫ひて始まる鬼ごっこ
花 堤 左 右 に 木 津 川 桂 川
花 蕉 や ダ ビ デ の 星 と 呼 ば れ た る
二〇一三年三月一八日

青春切符老いの春愁払ふべく
花に酔ひ人にも酔ひて吉野山
花の下憩ふグランドゴルフ族

旅の荷に聖書をしまふ入学子
胸高な袴姿や卒業子
蒲公英の道を辿りて教会へ

あ澄む はかう あはなつせい満はく子明日香
ひる子べ くかしづきあひく子天く子澄子
こすもす 素秀 智恵子

春愁を風に流さむ常香炉
卒業子部室に別れ惜しみけり
山門を出で深々と遍路笠
一一〇一三年三月二五日

毎日句会みのる選・一〇一二年四月一日

ほんこ　豊実　ひのと　澄子　すゑみ　みきお　素秀　み実